

～医療～ 「iPS細胞について」 **質問しました!**
2017年9月本会議にて

Question 【質問】

iPS細胞の最大の特徴は、無限に増殖、様々な細胞への応用性。
臨床応用には二つの可能性、再生医療の活用と創薬の開発。

iPS細胞の再生医療産業の世界市場規模は、経済産業省の予測で、今約1000億円程度が、3年後の2020年には1兆円、2030年には12兆円に。我が国のiPS細胞研究等をオールジャパンで進め、資金面は2012年で242億円、2013年～2022年の10年間で約1100億円の支援。京都大学iPS細胞研究所(CiRA、サイラ)と京都大学医学部附属病院は共同で、「再生医療用iPS細胞ストックプロジェクト」を進めている。

現在、サイラでは、日本人には拒絶反応が無く、細胞移植医療が対象患者のほとんどに可能となる、75種類のiPS細胞を作製することを目標。この達成には、数十万人以上の血液を検査するコストと時間が必要。サイラの高須副所長から日本の真ん中に位置する、愛知県にて血液採取拠点の設置の協力依頼がある。



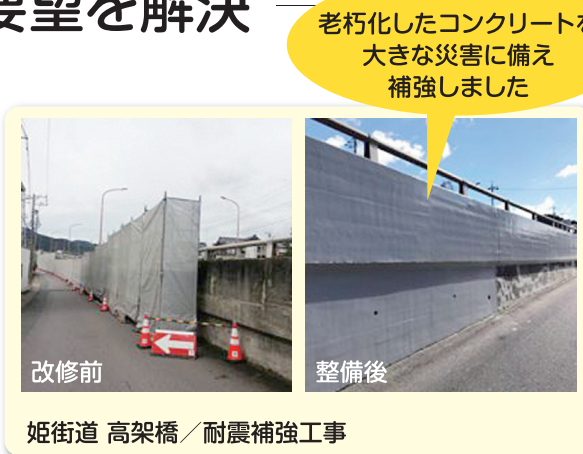
? 県は「命を守る」「命を救う」研究をサポートするチカラがあると強く感じ、サイラと日本赤十字社が本県で進めるプロジェクトを推進させるため、県としての考え方、またバックアップできることはないのか、お伺いします。



Answer 【答 弁 / 保険医療局長】

このプロジェクトは、拒絶反応が起きにくい細胞の型を持つ人を探し出し、細胞の提供が重要。一人でも多くの方の御協力が得られるよう、県が作製する啓発資材やホームページに掲載し、各地域の健康まつりの会場等で開催している骨髄バンクドナー登録会などで周知していきます。京都大学iPS細胞研究所、日本赤十字社及び本県が連携し、県民の皆様に広く、意義や有効性を情報発信することを検討。この取組みを通じて、再生医療用iPS細胞ストックプロジェクトをバックアップし、画期的な治療法の推進に寄与し、県民の皆様の健康、安全、安心に繋げてまいります。

◎皆さまからの要望を解決



藤原ひろき政策

政治は、誰がやっても同じではありません!

藤原宏樹

みなさまの声をぜひお聞かせください

お問い合わせ
藤原ひろき事務所 〒442-0857 愛知県豊川市八幡町横道93-1
TEL (0533) 56-8338 FAX (0533) 56-8321 E-mail:toyokawa_hiroki@yahoo.co.jp
県議会議員 藤原ひろきオフィシャルウェブサイト <http://fujiwarahiroki.com> Facebookもやっています

県議会議員 自由民主党 愛知県議員団所属

藤原ひろき 動!
県政レポート Vol.15 2017年



東三河の道路整備とは

未来へつづく
希望の光。

質問しました!
2017年9月本会議にて



「東三河地域の道路整備について」

Question 【質問】

国土交通省の「平成30年度予算概算要求書」では、「人口減少・高齢化社会の中で、労働者の減少を上回る生産性を向上、新たな需要・経済成長の実現に、港湾やICと生産拠点等を結ぶ物流ネットワークの強化を重点的に支援する。

- 1 名豊道路**
国道23号名豊道路は、名古屋からは蒲郡ICまで開通。豊川為当ICまでの約9kmが未開通区間。国道1号や23号では慢性的な渋滞が発生、産業活動や日常生活の大きな支障になっている。豊川市内の国道1号から金野ICを経由し、ラグーナ蒲郡までを繋ぐ、都市間ネットワークの都市計画道路金野御油線と大塚金野線がある。金野ICの接続道路の金野御油線から大塚金野線の事業化をお願いする。
- 2 151号線**
三河港から、名豊道路、東名高速道路、新東名高速道路を繋ぐ国道151号は、豊川市内を南北に横断する幹線道路。新城、南北設からの救急車両が利用する「命の道」として、早期整備が必要。更に、国道1号の宮下交差点も、主要渋滞箇所、三河港～豊川ICの物流や企業活動に支障がある。
- 3 東三河環状線**
東三河環状線は、市街地の渋滞緩和、三河港の物流強化の重要な環状道路。市内では、大崎、三蔵子地区で、整備が進められ、市北部の大木工業団地から、四ツ家交差点付近では朝夕の渋滞が激しく、非常に不便。市内を東西に横断する。
- 4 姫街道**
都市計画道路姫街道線は、八幡地区で、4車線化事業が進行中。JR飯田線と名鉄豊川線との踏切部は、遮断時間が長く、迂回道路もないため、昼間でも慢性的に渋滞が発生。

以上、東三河地域の発展のために
①名豊道路 ②151号線 ③東三河環状線 ④姫街道
の現在の進捗状況と、今後の取り組みについてお伺いします。

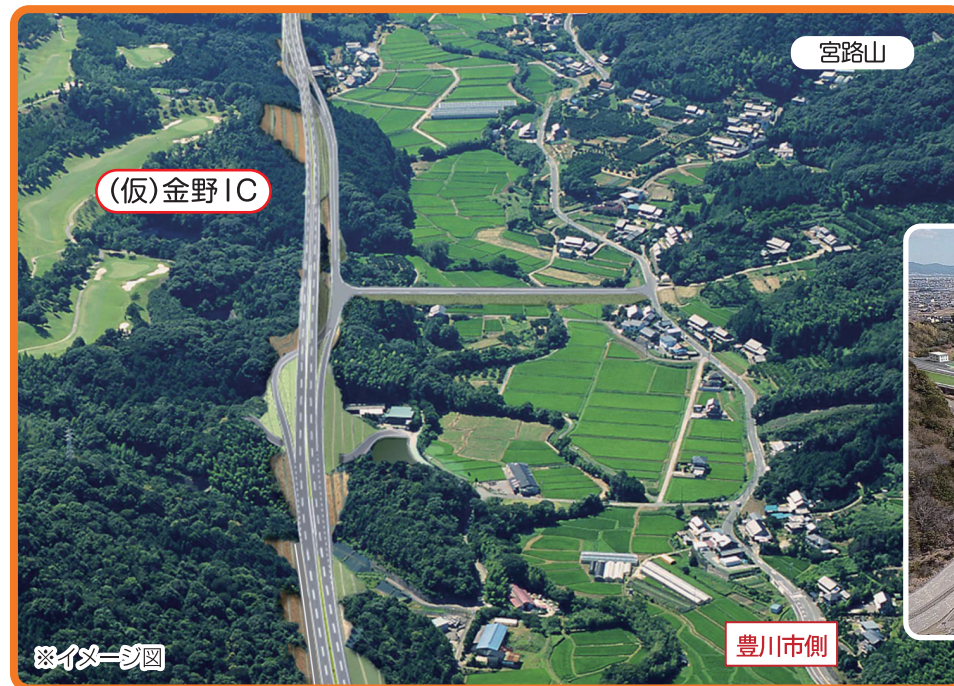
聞いて下さい
質問の答えは中にあります



東三河の道路整備について



国道23号バイパスイメージ図



御津高等学校付近より豊川市・豊橋市方面を望む



Answer 【答 井 / 建設部長】

① 名豊道路

名豊道路(仮称)金野ICのアクセス道路豊川蒲郡線は、現道の幅員が狭く**延長約2.1kmの整備に取り組中**。ICと豊川市街地の国道1号や臨海部のラグーナ蒲郡とを結ぶ2本の都市計画道路は、大塚金野線の鉄道交差点や長大トンネルのコスト縮減に向け検討中。いずれも、東三河地域の観光、産業・経済活動を活発にするためには重要。

② 151号線

一宮バイパスは、豊川ICから新城市川田の延長約7.9kmの計画。IC側からJR飯田線を越えて、**豊川市道までの約3.6kmを先行整備**。次に、国道151号と国道1号との宮下交差点の立体化は、小坂井バイパスから連続し、宮下を含め3箇所の交差点を越える延長約1.3km、**国の交付金により事業化**。今年度、高架橋の設計に必要な地質調査、来年度は、詳細設計を、**平成31年度には工事を着手**。

③ 東三河環状線

東三河環状線の大崎工区、三蔵子工区とも**9割程度が買収済み**、残る用地の早期確保に努めていく。

④ 姫街道

都市計画道路 姫街道線は、JR飯田線及び名鉄豊川線の交差点を、**アンダーパスの構造**とする計画。鉄道事業者など関係機関と協議を進め、豊川市の協力を得て**早期の事業化を目指す**。

Answer 【答 井 / 知事】

東三河地域は、**優れた地域資源を有し、この地域のポテンシャルを最大限発揮**させ、人やモノの流れを円滑にする道路整備が重要で、昨年の新東名高速道路の開通、三遠南信自動車道や名豊道路の整備、広域連携強化が進んでいる。

本県は、魅力ある「ほの国」東三河の実現に向け、**地域産業の競争力、快適な暮らしを支える道路整備**に積極的に取り組む。

